

パリ DAC 通信

(変化する環境と今後の DAC の役割～DAC の「リフレクション作業」)

DAC の「リフレクション作業」が、ODA を取り巻く環境の変化を踏まえ、今後の DAC の役割について DAC 設立後初めての提言を行う予定です。

ODA を取り巻く環境は大きく変化

「リフレクション作業」では、ODA を取り巻く環境として、20 世紀半ば以降、世界の人々の厚生の上には大きな成果がみられるものの、その成果は平等には行き渡らず、また現下の経済危機により、多くの人々が引き続き貧困にとどめおかれる可能性は高くなっていると指摘しています。さらに世界人口の増加やグローバル化の進展により、地球環境に与える負荷の増大への対応や、金融システムの安定化、公正な貿易システム、国際的な和平や安全保障、感染症の拡大阻止などの新たな課題が台頭してきており、環境は大きく変化している点を指摘しています。

増加する開発への資金と新たな課題

このような中、2008 年の DAC ドナーによる ODA 額は約 1200 億ドルと史上最高額を記録し、また途上国の独自の歳入、民間による資金流入、移民からの送金なども増加し、開発のための資金の量は大きく増加しています。他方、新興ドナーや民間ドナーの活動は、多様性をもたらす一方で、援助の断片化という課題をももたらしており、これに対応して DAC による援助効果向上の議論や、国連における開発協力フォーラムの設立などの取り組みが始められたとしています。

DAC の Cutting-Edge な取組と従来の活動の強化

「リフレクション作業」は、DAC の Cutting-Edge な取組として、援助効果向上、援助額見直し調査、気候変動対策のアプローチの主流化、紛争と脆弱性の国際ネットワークの設立、国際機関を通じた援助の傾向調査をあげ、また、従来の活動について、援助効果向上への取組の継続した主導、援助統計の対象の拡大、援助審査の途上国の参加やフォローアップによる強化などの必要性を指摘しています。

将来の DAC の役割に向けた4つの提言

以上を踏まえ、「リフレクション作業」は以下の4点を DAC に提言し、DAC はこれを今後の活動の指針とする予定です。

援助の質と量の双方における既存の公約をドナーが達成するよう、加盟国及び広範なドナーコミュニティへの支援を継続していくこと。

開発協力のためのグローバル・ガバナンス・システムの改革プロセスを支援すること。

「開発のための政策一貫性」の取り組みを深化し加速させること。

「国際公共財」の開発戦略への統合を進めること。